

地方独立行政法人天王寺動物園

第1期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績に関する報告書

第1期（令和3年4月1日～令和8年3月31日）

令和7年3月31日現在

目次

1	全体評価	P. 2
2	項目別評価	P. 3
1	住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	P. 3
1-1	動物展示の充実と快適な園内環境の創出による天王寺動物園の魅力向上	
1-2	動物の生態等に関する理解や関心を深めるための教育活動の推進	
1-3	動物福祉に配慮した飼育管理と高度な飼育技術の確立	
1-4	繁殖及び調査研究活動の推進	
2	業務運営の改善及び効率化に関する事項	P. 10
2-1	自律的な組織経営	
2-2	人材の確保・育成と職員の能力向上・意欲喚起	
2-3	効果的・効率的な業務執行	
3	財務内容の改善に関する事項	P. 13
3-1	収入の確保	
3-2	経費の節減	
4	その他業務運営に関する重要事項	P. 15
4-1	内部統制の強化	
4-2	来園者の安全確保	
4-3	職員の安全衛生管理	
4-4	環境に配慮した取組の推進	
4-5	情報公開の推進	
4-6	BCPの策定	

1 全体評価

前文

地方独立行政法人天王寺動物園（以下、「法人」という。）は、地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号。以下「法」という。）に基づき、大都市大阪にふさわしい「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指すことを目的として、動物園としては全国初の地方独立行政法人として令和 3 年 4 月 1 日に設立された。設立団体の長である大阪市長が指示した令和 3 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日までの 5 年間における天王寺動物園の中期目標を達成するため、中期計画を定め、業務を行ってきた。

法第 28 条の規定に基づき、中期目標の期間の最後の事業年度の直前の事業年度に、当該中期目標期間における業務の実績にかかる自己評価を行う。

（概要）

発足 1 年目の令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、当園も数か月にわたり、臨時休園を余儀なくされたが、令和 4 年度は第 1 期獣舎整備工事のスタートなど、ハード面で今後の布石となる大きな事業を展開できたほか、新施設である「ふれんどしっぷガーデン」のオープンや当法人初のクラウドファンディングによる国内産動物の保全活動の取り組みなど、動物福祉の実現と動物保全への取り組み及び環境教育の実践といったソフト面についても、活動の良きスタートとなる事業を展開することができた。令和 5 年度は、4 月に新施設「ペンギンパーク&アシカワーフ」をオープンできたことに加え、5 月には新型コロナウイルス感染症の感染法上の 5 類移行による外出自粛規制の緩和、11 月には新施設「鳥のセカイ」のオープンもあり、前年度以上に多くのお客様をお迎えすることができた。令和 6 年度は、令和 7 年 4 月から開催が予定されている大阪・関西万博及び令和 7 年 1 月 1 日で開園 110 年を迎える天王寺動物園の周年事業を見据え、ホームページや SNS での発信を強化し、万博や 110 周年に関連したイベントを数々実施し、多くのインバウンドによる海外からの来園者に加えて、古くから長期にわたり天王寺動物園を支えてくださる地域の方々にも多数ご来園いただいた。特に、1 月 1 日の開園記念日においては 2 万人を超える来園者をお迎えし、改めて 110 年の歴史の重みとローカル・グローバル問わず多くの皆様の当園、さらには広く大阪・関西地域への関心と期待の高さを実感した。令和 7 年度もこれまでに引き続き、動物福祉を柱とした飼育展示はもとより、飼育・診療技術の発展、環境教育の拡充、調査研究活動の促進を通じて生物多様性の保全に寄与するとともに、多様な来園者の皆様・支援者の皆様のニーズに応え、当園が目指す「世界に誇れる大都市大阪の動物園」にむけて、これからも職員一同ワンチームでお客様をはじめ、地域の皆さまとともに歩んでいく。

（評価について）

法人が行う自己評価については、「2. 項目毎の評価」のとおりである。

また、自己評価の区分は次のとおりとする。

S・・・特筆すべき達成状況

A・・・目標どおり達成

B・・・おおむね目標どおり達成

C・・・目標を十分には達成できていない

D・・・法人の組織、業務等に見直しが必要

2 項目別評価

大項目	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項																																																																																											
	1 動物展示の充実と快適な園内環境の創出による天王寺動物園の魅力向上	多くの方に来園したいとっていただけるよう、展示動物の充実により天王寺動物園の魅力を上向きさせるとともにその魅力発信を強化する。また、再度来園したいとっていただけるよう、快適な園内環境を創出する等、来園者満足度を高めるための園内サービスの充実を図る。																																																																																										
中期目標	中期計画	実績・特に成果があった取組等・今後の取組																																																																																										
<p>(1) 展示動物の計画的な導入・確保 動物園の根幹である動物展示の充実に向け、人気動物や希少動物の計画的な導入・確保（繁殖を含む。）に取り組む。</p> <p>(2) 魅力的なイベントの企画・実施 園内で楽しむ・学ぶ、双方の観点から、企業、近隣施設、NPO法人、教育機関等とも連携しつつ、多様なイベントを企画・実施する。</p> <p>(3) 積極的な情報発信 天王寺動物園の取組内容や飼育動物の状況について、各種メディアを通じた情報発信のほか、ホームページやSNSを利用して自らが情報発信の主体となる等、ターゲットに応じて媒体を使い分け、積極的かつタイムリーな情報発信を行う。</p> <p>(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委</p>	<p>(1) 展示動物の計画的な導入・確保 来園者ニーズの高い人気動物や希少動物の導入に向け、国内外の動物園との信頼関係を構築するための取組として、動物園コミュニティの活動に積極的に参加・協力する。 また、当園の飼育状況（コレクション計画、獣舎整備計画等）を踏まえた具体的な動物導入計画に基づく取組を行う。</p> <p>(2) 魅力的なイベントの企画・実施 誘客面やリピーター増加に加え教育効果の観点からも、これまで実施してきたイベントの内容・時間・連携先などを検証のうえ、イベント企画実施にかかる指針を策定し、魅力的・効果的なイベントを企画・実施する。</p> <p>(3) 積極的な情報発信 ホームページ、各種 SNS 等を活用して、ターゲットや目的を明確にしたうえで効果的でタイムリーな情報発信を行うことにより、誘客に加え、動物の生態、生物多様性等の保全に関する理解にも繋げる。 また、各種メディアからの取材、番組企画やロケーションを積極的に受け入れるとともに、メディアへの継続的な情報提供を行う。</p> <p>(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者が園内で楽しく過ごすこ</p>	<p>(1) 展示動物の計画的な導入・確保 ・「天王寺動物園コレクション計画」に基づき、S（繁殖・導入優先）ランクであるナベヅル、コビトマンギース、オシドリ、A（繁殖・導入推進）ランクであるフンボルトペンギン、ジャガー、パラワンコクジャク、ニホンイシガメ、ヒツジ、テンジクネズミ、A'（繁殖不可・導入推進）ランクであるグラントシマウマ等を導入した。また、B（繁殖可・現状維持）ランクではあるが、希少種であるチンパンジーを導入した。 ・令和5年度の日本動物園水族館協会（以下、JAZA という）「第23回種保存会議」においては、開催園としての役割を果たし、成功裏に終えることができた。また、園内のホールで開催した一般向けのシンポジウムには多くの方に参加いただいた。 ・JAZA の種別管理の担当や部会員を継続して受嘱しており、各動物種の繁殖計画推進会議・生物多様性委員会にも参画している。</p> <table border="1"> <caption>受嘱委員会及び受嘱者</caption> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="5">(人)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①生物多様性委員会</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>キリン専門技術員</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ヨウスコウワニ種別管理者</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ホッキョクグマ専門技術員</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>クロサイ専門技術員</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>シロザル専門技術員</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>マレーグマ計画推進会議専門技術員</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ニホンイヌワシ専門技術員</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>フランソワルトン専門技術員</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>②安全対策委員会 感染症対策部部員</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>②総務委員会 栄養部部員</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>④教育普及委員会 学術研究部部員</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計（のべ人数）</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table> <p>・令和6年度のイヌワシ計画推進会議をきっかけとして、令和7年3月にニホンイヌワシの有精卵を譲り受け、子育てに実績のある当園のペアを仮親としていたが、令和7年4月に無事ふ化し順調に育てている。（6月現在） ・令和6年1月に発生した能登半島地震で被災した「のとじま水族館」より、急遽2月にカリフォルニアアシカ1頭を引き受けることとなったが、健康状態を良好に保った状態で飼育し、10月に「いしかわ動物園（のとじま水族館と同じ運営会社）」へ無事引き渡した。また葛西臨海水族園の改修工事のため、令和6年9月にフンボルトペンギン24羽を預かり、令和7年3月に健康状態を良好に保った状態で全羽を引き渡した。</p> <p>(2) 魅力的なイベントの企画・実施 ・モーニング・ズーなどの新規イベントに取り組むほか、ナイト ZOO におけるイベントの充実も図り、楽しみながら学べる魅力的なイベントを実施した。 ・令和7年の110周年記念事業においては、万博の機運醸成を行うほか電車内広告、ラッピング電車の運行、特設サイトといった通常イベントとは異なるアプローチで積極的に情報発信に取り組んだ。また、開園記念日の1月1日は無料開園し、様々な新企画のイベントを実施したことにより、令和6年と比べ入園者数の大幅増（15,646人増）となった。 ・教育イベントに関しては企画展連動型ワークショップを多数立案し実施につなげた。また、各イベント・企画展実</p>		(人)						R2	R3	R4	R5	R6	①生物多様性委員会					1	キリン専門技術員					1	ヨウスコウワニ種別管理者	1	1	1	1	1	ホッキョクグマ専門技術員	1	1	1	1	1	クロサイ専門技術員	1	1	1	1	1	シロザル専門技術員	1	1	1	1	1	マレーグマ計画推進会議専門技術員			1	1	1	ニホンイヌワシ専門技術員			1	1	1	フランソワルトン専門技術員			1	1	1	②安全対策委員会 感染症対策部部員	1	1	1	1	1	②総務委員会 栄養部部員		1	1	1	1	④教育普及委員会 学術研究部部員		1	1	1	1	合計（のべ人数）	5	7	10	10	11
	(人)																																																																																											
	R2	R3	R4	R5	R6																																																																																							
①生物多様性委員会					1																																																																																							
キリン専門技術員					1																																																																																							
ヨウスコウワニ種別管理者	1	1	1	1	1																																																																																							
ホッキョクグマ専門技術員	1	1	1	1	1																																																																																							
クロサイ専門技術員	1	1	1	1	1																																																																																							
シロザル専門技術員	1	1	1	1	1																																																																																							
マレーグマ計画推進会議専門技術員			1	1	1																																																																																							
ニホンイヌワシ専門技術員			1	1	1																																																																																							
フランソワルトン専門技術員			1	1	1																																																																																							
②安全対策委員会 感染症対策部部員	1	1	1	1	1																																																																																							
②総務委員会 栄養部部員		1	1	1	1																																																																																							
④教育普及委員会 学術研究部部員		1	1	1	1																																																																																							
合計（のべ人数）	5	7	10	10	11																																																																																							

託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。

とができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。

定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。

さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。

施後はアンケート等で都度検証し、必要に応じて改善点を次回に反映させている。

- 令和3年度に既存制度（応援団）を会費や特典などの面で見直し、ファンクラブとして再編成した。以降、継続してファンクラブ募集にも取り組んでおり、会員数が増加している。

	R2	R3	R4	R5	R6	R3→R6 比較	(参考) リピート率 R5→R6
プレミアム	-	329	417	505	569	172.9%	82.8%(418/505件)
スマート	-	59	70	90	120	203.4%	75.6%(68/90件)
プチ	-	4,594	4,385	3,175	5,021	109.3%	
法人	-	62	70	82	76	122.6%	92.6%(63/68件)

(3) 積極的な情報発信

- 飼育員ブログ等では、飼育動物に関する情報のみならず、動物の生態や生物多様性等の保全に関する理解に繋がる情報発信についても積極的に行った。
- X(旧Twitter)の開設、JR天王寺駅お知らせコーナーの設置、ホームページの多言語化など情報発信の拡充に取り組みとともに、番組企画・ロケーション等の受入も積極的に行った。

	R2	R3	R4	R5	R6
-	1,481	1,774	1,348	1,877	

	R2	R3	R4	R5	R6
X(旧Twitter)	-	9,613	15,468	20,531	25,849
Instagram	-	42,307	47,190	52,800	58,725
You Tube	-	17,002	18,951	20,784	21,812
Facebook	-	26,453	27,266	27,395	27,379

(4) 質の高い来園者サービスの提供

- ホスピタリティマインドの醸成については、研修の実施にとどまらず効果検証も行ったほか、ホームページでのアンケート実施や園内でのQR掲示により、多くの来園者からいただいた声をもとに改善に努め、改善した内容についてはホームページにて掲載を行った。

	R2	R3	R4	R5	R6
アンケート収集数	-	524	820	920	1,180

また、令和5年3月にキャッシュレス決済を導入、令和6年4月にWi-Fiを設置するなど来園者サービスの向上を図った。

- 多言語化については、令和5年3月に外国語対応用として翻訳機（ポケトーク）を導入した。
また、令和7年4月からの万博開催に伴う海外からの来園者に対しては、QRトランスレーターによる動物解説、インフォメーションセンターによる園内施設等案内など丁寧なおもてなしを行った。
- 第1期で完成した鳥のセカイや改修を終えたチンパンジーベース・アジアの森では、園路は緩やかな勾配で無理のない移動ができるよう配慮し、滑りにくく段差のない床仕上げ、ゆとりある幅員を確保するとともに、各種サインは多言語表記とした。
- 建設中のホッキョクグマ舎（令和7年度中完成予定）では、屋根付きの屋内展示室の設置、観覧窓に面した滞留ゾーン・雛壇状のベンチの設置など、ゆったりと鑑賞できるように配慮した設計・施工を行った。
- 令和6年6月にはミスト・スプリンクラーの設置、ベンチ増設などを行った。

		<p style="text-align: center;">法人の自己評価</p>	<p style="text-align: center;">A</p>
		<ul style="list-style-type: none"> • コレクション計画に基づき複数種の動物を導入し、展示動物の充実を図った。 • 令和 5 年度、JAZA の種の保存会議を開催園として成功させただけでなく、動物園関係者以外の方にも動物園の種の保存の取組を知っていただくよい機会とすることができた。また種別管理の担当や部会員を継続して受嘱し、貢献することで、園の信頼向上につなげた。 • インバウンド対応のため、様々な機器等を導入し、多言語化を行った。 • 多くの方に来園していただけるようイベントを充実させ、積極的な情報発信を行うとともにキャッシュレス決済の導入、暑さ対策やユニバーサルな観覧環境に配慮した施設を整備するなど、来園者サービスの向上などに取り組んだ。 <p>以上のことから、目標どおり達成できた。</p>	

大項目	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項																																																																															
	2 動物の生態等に関する理解や関心を深めるための教育活動の推進	平成 30 年 8 月に策定した「天王寺動物園教育ポリシー」を踏まえて教育普及機能を強化し、飼育動物の生態のみならず、野生動物を取り巻く地球規模の環境問題も視野に教育普及活動を行い、来園者の行動変容に繋げる。																																																																														
中期目標	中期計画	実績・特に成果があった取組等・今後の取組																																																																														
<p>(1) 間近で動物を感じる機会の提供 飼育動物の展示、「ごはんタイム・おやつタイム」の実施、餌やり体験や「ふれあい広場」の運営等を通じ、リアルな動物を見る、声を聴く、においを感じる等の生きている証に出会う機会を提供する。</p> <p>(2) 園内外における学習機会の提供 職員が園内で実施する教育普及プログラムや企画展の実施、天王寺動物園に所蔵している剥製標本等の動物資料の展示や解説パネルの設置等を通じ、園内における学習機会を提供する。 また、学校での授業に活用できる教育プログラムキットの貸出しや教員研修への協力等を通じ、園外における学習機会を提供する。</p> <p>(3) NPO法人・ボランティア等との協働による学習機会の提供 希少動物の保護や環境保護の取組を行っているNPO法人やボランティア等と協働した独自のキャンペーン等により学習機会を提供するとともに、園外で実施されるキャンペーン等にも積極的に参画することで広く学習機会を提供する。</p>	<p>(1) 間近で動物を感じる機会の提供 ごはんタイム・おやつタイムの実施や動物への餌やり体験等、新たなふれあい広場の運営を通じ、来園者が間近を感じる機会を提供する。 また、お客様のニーズや満足度を把握する等、展示効果の検証を行いつつ、間近で行動的な動物が見られる展示となるような取り組みを進める。</p> <p>(2) 園内外における学習機会の提供 教育ポリシー・新学習棟活用を踏まえた、当園の教育普及活動に関するアクションプログラムに基づき園内外における学習機会の提供を行いながら、受講者・来園者調査に基づき、継続的に提供するメニューやその内容、アクションプログラムの改善を図るサイクルが回っている状態を目指す。 また、来園者に動物の魅力及び生息地の状況が伝わるようなパネル展示を継続して実施する。 さらに、多様な教育普及の観点から、NPO法人・ボランティア・大学との連携協定の締結などにより協働体制を構築する。</p>	<p>(1) 間近で動物を感じる機会の提供 ・ふれんどしっぴーガーデン、ペンギンパーク&アシカワーフ、鳥のセカイを相次いでオープンさせ、地球規模の環境問題を考えたり、においや鳴き声、様々な行動にふれる機会が得られる展示を提供した。「ごはんタイム・おやつタイム」については毎日実施している。 ・令和4年度にオープンしたふれんどしっぴーガーデンにおいては、動物の行動を踏まえ、オープン当初の「動物が自発的に接近すれば動物に触れても良い」方針から動物福祉を考慮した「動物には触れずに観察する」よう方針を変更した。 「みんなであそびじかん」における参加者アンケートでは、「少し楽しかった」「楽しかった」を合わせると、9割を超え、説明がわかりやすかったという回答も9割を超えた。また、来場者と同じエリアでの動物の休息が多く観察され、動物のQOLが向上した。 ・令和5年度にオープンしたペンギンパーク&アシカワーフにおいては、「おやつタイム・ごはんタイム」の実施方法を検討し、水中での採餌行動が観察可能となる施設構造も活用し、教育的観点からの解説も継続して実施している。 ・令和5年度にオープンした「鳥のセカイ」では、学名札に合わせて、温帯や熱帯雨林、乾燥地帯など様々な環境に適応してきた鳥たちの生態や暮らしに関する豆知識を記載したパネルや鳥の体の仕組みや繁殖に関する説明を記載した大型パネルを設置し、来園者の興味だけではなく教育効果を高める工夫をした。</p> <p>(2) 園内外における学習機会の提供 ・教育普及活動の基本となる教育普及アクションプランを毎年策定し、ズー・スクール（出張レクチャー）などの教育普及プログラムに継続的に取組み、実施回数を増加させた。令和4年度より出張レクチャーについては市外団体の申込みも可能とし、市外の小中学校などにも学びの場を提供したことに加え、利用者へのアンケート調査では、行動変容に繋がっていることが窺える回答を多数いただいた。</p> <table border="1"> <caption>教育普及アクションプラン実施件数</caption> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="5">(件数)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) ディスカバー・プログラム</td> <td>-</td> <td>53</td> <td>160</td> <td>208</td> <td>307</td> </tr> <tr> <td>・ 講話、ガイドウォーク</td> <td>-</td> <td>28</td> <td>75</td> <td>79</td> <td>131</td> </tr> <tr> <td>・ 動物ショート・ガイド</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>・ 職場紹介</td> <td>-</td> <td>10</td> <td>17</td> <td>12</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>・ 飼育体験</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>・ オンライン講話</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>・ 出張レクチャー(市内)</td> <td>-</td> <td>12</td> <td>23</td> <td>42</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>出張レクチャー(市外)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>28</td> <td>30</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>・ 貸出キット・標本貸出し</td> <td>-</td> <td>3</td> <td>8</td> <td>32</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>(2) 「園長におまかせ！」講話</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>(3) 動物とお話</td> <td>-</td> <td>16</td> <td>24</td> <td>24</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table> <p>・令和5年11月に新たにオープンした「鳥のセカイ」では、学名札に合わせて、温帯や熱帯雨林、乾燥地帯など様々な環境に適応してきた鳥たちの生態や暮らしに関する豆知識を記載したパネルや鳥の体の仕組みや繁殖に関する説明を記載した大型パネルを設置した。 ・令和6年8月の企画展「戦時中の動物園～忘れない、繰り返さない、目を背けない～」や令和7年2月のイシガメに関する講演会「関西のカメ事情～イシガメの楽園はもうないの？～」では8割以上の方から「戦争を起こさない、忘れない」「飼育している動物を遺棄しない、動物が置かれている現状を伝える」といった行動変容がうかがえる。</p>		(件数)						R2	R3	R4	R5	R6	(1) ディスカバー・プログラム	-	53	160	208	307	・ 講話、ガイドウォーク	-	28	75	79	131	・ 動物ショート・ガイド	-	-	-	-	3	・ 職場紹介	-	10	17	12	24	・ 飼育体験	-	-	4	11	10	・ オンライン講話	-	-	5	2	1	・ 出張レクチャー(市内)	-	12	23	42	52	出張レクチャー(市外)	-	-	28	30	64	・ 貸出キット・標本貸出し	-	3	8	32	22	(2) 「園長におまかせ！」講話	-	-	6	6	6	(3) 動物とお話	-	16	24	24	24
	(件数)																																																																															
	R2	R3	R4	R5	R6																																																																											
(1) ディスカバー・プログラム	-	53	160	208	307																																																																											
・ 講話、ガイドウォーク	-	28	75	79	131																																																																											
・ 動物ショート・ガイド	-	-	-	-	3																																																																											
・ 職場紹介	-	10	17	12	24																																																																											
・ 飼育体験	-	-	4	11	10																																																																											
・ オンライン講話	-	-	5	2	1																																																																											
・ 出張レクチャー(市内)	-	12	23	42	52																																																																											
出張レクチャー(市外)	-	-	28	30	64																																																																											
・ 貸出キット・標本貸出し	-	3	8	32	22																																																																											
(2) 「園長におまかせ！」講話	-	-	6	6	6																																																																											
(3) 動物とお話	-	16	24	24	24																																																																											

る回答を得ることができた。

- 令和7年2月に、国際ホッキョクグマの日にちなんだ、ホッキョクグマの生息域保全に関するガイドやワークショップを、保全団体や当園のボランティア団体とともに実施した。
- 在来種であるニホンシガメやオオサンショウウオの保全に関する講演会を、外部講師を招いて実施した。
- 大阪・関西万博共創チャレンジの取組を園内外で複数回実施した。(当園の堆肥の活用、関連イベントへのブース出展・講話の実施等)。
- 新たなボランティア制度(天王寺動物園ボランティアクラブ 1915)を令和4年度から立ち上げ、会員数の拡充及び参加可能なイベント種別の拡大を図った。

	(人)				
	R2	R3	R4	R5	R6
ボランティア会員数	-	-	-	14	28

※会員募集はR5年度より

- 令和6年度より民間事業者(動物専門学校運営法人:教育事業者)と協定を結び、「ふれんどしっぴーガーデン」の飼育運営管理を委託した。当該事業者とは、平成25年度以降、生物多様性の保全や野生動物等についての教育普及活動や調査研究に関して双方向性の充実を図ることを目的とした連携協定に基づき、継続して園内企画展の共催や旧ふれあい広場やふれんどしっぴーガーデンで学生ボランティアの派遣を受け入れてきた経過がある。当園の社会教育機関としての機能をさらに充実・発展させるため、当該事業者の専門スタッフによる飼育管理およびボランティアではなく、専門学校の実習としての位置付けで学生を受け入れ、「動物には触れずに観察する」方針は継続しているが、基本的な運営を自主的に任せることにより、将来を担う人材に対する極めて実践的な学習機会の提供の場となっている。

法人の自己評価

A

- 独法化後にオープンしたふれんどしっぴーガーデン、ペンギンパーク&アシカワーフ、鳥のセカイにおいて、展示方法等を工夫し、教育効果を高めた。特にふれんどしっぴーガーデンにおいては、これまでと異なるふれあい事業のあり方を検討・実施し、来園者への教育効果を下げることなく動物のQOLをあげることができた。
- 教育普及アクションプランについて、基本的な考え方(①親しみやすい話題の提供 ②その場ですぐ行動できる選択肢の提供 ③参加者の声を踏まえたプログラムの改善・発展)を踏まえ毎年策定した。教育普及プログラムや協働イベントを実施し、アンケートでも行動変容につながる回答を得ることができたため、引き続き行動変容に繋げられるプログラムを実施した。
- 動物舎前のパネル展示は、来園者の興味だけではなく教育効果を高める工夫を行いながら適宜更新し、継続して実施した。
- ズー・スクール(出張レクチャー)などの教育普及プログラムに精力的に取り組む、実施回数を増加させたことで園内外における学習提供の機会が拡充した。
- また、ボランティアについては新たな制度を構築し、ボランティアの会員数を増加させるとともに、活動内容の充実を図った。
- それに加え、全国でも例のない形態による、「ふれんどしっぴーガーデン」の飼育管理運営委託により、来園者だけでなく運営者側(教育事業者・学生)に対する意義ある教育機会を創出し、業界全体の教育に大きく寄与した。以上のことから、目標どおり達成できた。

大項目	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項																												
	3 動物福祉に配慮した飼育管理と高度な飼育技術の確立	動物の高齢化と獣舎の老朽化が進むなか、動物園の主役である動物たちに事故が起こらないように対策を講ずることはもとより、健康で幸せに暮らせる環境を創出することは、動物園経営における最重要事項であり、また、最低限の責務でもあることから、飼育管理機能を強化する。特に、これまでに培った飼育技術を着実に継承しながら、さらに高度化させるとともに、世界に通用する飼育基準に適合した獣舎整備を着実に推進することで、動物福祉の充実を図り、天王寺動物園の魅力向上に繋げる。																											
中期目標	中期計画	実績・特に成果があった取組等・今後の取組																											
(1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 動物園という限られた環境の中でも飼育動物の生活の質を高め、健康で生き生きと暮らせるよう、動物福祉に配慮した飼育を実践する。この際、環境エンリッチメント（動物福祉の立場から、飼育動物の幸福な暮らしを実現するための具体的な方策）やハズバンドリートレーニング（動物の自発的行動を発現させるような飼育手法を用いて、飼育者が望む行動を飼育動物に発現させるためのトレーニング）にも天王寺動物園全体として取り組むとともに、飼育技術の高度化に取り組む。	(1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 動物福祉に配慮した飼育を実践するために、環境エンリッチメントやハズバンドリートレーニングに園全体として取り組んでいく。取組みにあたっては、一定の考え方のもと体系的に行うとともに、定期的な検証を踏まえるほか、現在実践している飼育メニューも改めて点検のうえ、マニュアル化するとともに人材の教育・研修体制を構築する。	(1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 ・第一期中期目標と軌を一にし「環境エンリッチメント・ハズバンドリートレーニングに関する方針」を定めた。環境エンリッチメントは、周囲がコンクリートに囲まれている・狭小な環境施設および異常行動が発現しやすい種（クマ類やサル類）を中心に対象種を選定し、ハズバンドリートレーニングは精緻な健康管理が必要な高齢個体および繁殖を中心に対象種を選定して実施した。これらの取組みは基礎知識が必須であることから行動分析学の研修を毎年度実施した。また、継続した研修により個々のケースを出席者で確認し、園全体でPDCAに取り組んだ。 ・効果検証の結果、具体的にはトレーニングでは、シロフクロウの体重測定の際には体重計の上に止まり木を置いて、そこに掴ませることで体重測定が可能になるなど到達レベルが上がり、効果が認められた。 ・令和6年度、動物用飼料（ペレットなど）の製造会社の飼料開発担当者（栄養学の専門家）による動物飼料や栄養管理について学ぶ講演会を代理店の協力で主催した。（当園で平成28年以来（他園館ではコロナ禍前に金沢で開催されて以来）の主催） ・令和6年度には環境エンリッチメントワークショップを開催し、他の園館の環境エンリッチメントについて学び実践した。																											
(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 施設整備計画に基づき、園内の獣舎整備を推進し、新たに建設する獣舎については、広さ、構造、設備等、世界に通用する飼育基準に適合した設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、改善や工夫を施し、動物にとって適切な飼育環境を確保する。	(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 新たに建設する獣舎については、日本動物園水族館協会が示すガイドライン以上の広さ、構造、設備等を備えた設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、工夫を施し、動物福祉に配慮した飼育環境を確保する。 また、既存獣舎についても、維持管理計画に基づき適切な点検・補修を継続するとともに、動物福祉の観点も踏まえた小規模改良を実施する。	(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 ・新病院研究棟について、他園の診療施設の見学から得た各室の配置、構造上の留意点等を加味し、作業動線や感染症発症時の施設配置を考慮し、基本構想を策定した。 ・ホッキョクグマ舎等新たに建設する獣舎において、JAZAの施設整備ガイドラインに基づき、広さの確保や空調設備の設置などを実施した。また、既存獣舎についても、ベッドの新設や給餌設備を工夫するなど、動物福祉に配慮した飼育環境を確保した。 ・第1期リニューアルの計画策定、発注・工事を計画的に行い、地中障害等による遅延があったが、最終年度（令和7年度）内に完成する予定である。 ・第1期リニューアル計画を踏まえた維持管理計画を策定し、着実な点検・補修を実施した。																											
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="5">(件数)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>園内修繕件数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>58</td> <td>73</td> <td>114</td> </tr> <tr> <td>(うち緊急修繕)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>20</td> <td>12</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table> <p>※包括委託業務はR4年度より</p>					(件数)						R2	R3	R4	R5	R6	園内修繕件数	-	-	58	73	114	(うち緊急修繕)	-	-	20	12	10
	(件数)																												
	R2	R3	R4	R5	R6																								
園内修繕件数	-	-	58	73	114																								
(うち緊急修繕)	-	-	20	12	10																								
		法人の自己評価		A																									
		<ul style="list-style-type: none"> 「環境エンリッチメント・ハズバンドリートレーニングに関する方針」を定め、着実に取組を進め、効果も認められている。（【トレーニング実施状況】40種 【環境エンリッチメント実施状況】59種） 環境エンリッチメントワークショップや講演会を企画・実施することで、広い人材育成と動物福祉向上につなげた。 リニューアル工事については地中障害物等の影響により当初計画からは整備が遅れたが、大阪市と調整し、計画を変更した。変更後の計画においては第1期期間中にリニューアル整備事業を完了し、維持管理計画に基づく点検補修を実施した。 計画どおり新病院・研究棟基本構想を策定した。 <p>以上のことから、目標どおり達成できた。</p>																											

大項目	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	
	4 繁殖及び調査研究活動の推進	飼育動物の維持・充実とともに、生息域外保全という観点から種の保存に貢献するため、繁殖技術の向上を図るとともに動物の生態に係る各種調査研究活動を推進することで国内外の動物園からの信頼を高める。
中期目標	中期計画	実績・特に成果があった取組等・今後の取組
<p>(1) 繁殖の推進</p> <p>技術の向上に取り組み、自園における繁殖を推進するとともに、他園との動物の貸出し・借入れや余剰動物を預かる等の繁殖協力を推進する。また、生息域内保全についても、世界動物園水族館保全戦略を規範として、動物園としての支援活動を通じて貢献していく。</p> <p>(2) 調査研究の推進と知見の共有</p> <p>動物園として調査研究活動に取り組むとともに、大学等の研究機関等と連携した共同研究を推進する。研究成果については、他園も含めた動物園の活動の改善はもとより、広く住民や社会に還元する。</p>	<p>(1) 繁殖の推進</p> <p>種毎の飼育方針文書に基づき、動物福祉の観点も踏まえ、計画的に繁殖に取り組むとともに、現在も実施している他園の繁殖への協力としての貸出・借入等に引き続き取り組む。</p> <p>また、法人として可能な域内保全への支援活動を継続する。</p> <p>(2) 調査研究の推進と知見の共有</p> <p>自園において取り組むべき調査研究対象を定め、着実に継続するとともに、大学等と連携した共同研究を推進するために、動物園の活用を積極的に周知する。</p> <p>また、研究成果について、業界団体等の大会や研究会において学術発表することで、知見の共有を図る。</p>	<p>(1) 繁殖の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度にニホンイシガメの保全をテーマとして実施したクラウドファンディングを経て令和5年度に爬虫類生息館（アイファー）の改修工事を完了した。プランニングにあたってはニホンイシガメの繁殖に多大な実績のある姫路市水族館の視察や技術主任の直接指導を受けるなどハード、ソフト両面で保全につながる整備を図り、ニホンイシガメの生息環境の啓発、保全につながる環境整備を整えた。 配偶子バンク保管施設の西日本拠点となるべく、必要な設備機器等を寄附金で購入し準備を進め、令和6年10月からJAZA加盟園館の対象哺乳類の精子保存の受入を開始するため配偶子バンクの受け入れ態勢を整えた（全国で8園館、大学・研究施設では5施設）。令和7年3月より配偶子（精子）の保存を開始した（全国で4園館、大学・研究施設では5施設）。 コレクション計画に基づき、繁殖推進種を定め、環境整備や情報収集に努め、令和5年度には天王寺動物園では9年ぶりのフラミンゴの繁殖に成功、国内2園目となる希少種ヨウスコウワニの繁殖に成功した。 希少野生動物種の取扱いについて、種の保存に資するものとして一定の基準に適合した動植物園等が「種の保存法」の規定により認定される「認定希少種保全動植物園」に令和6年7月に国内16園目（令和7年3月27日時点で24園）として認定された。これにより、希少野生動物種の個体等の譲渡し等について、原則として規制が適用されないことになり、繁殖等に向けた他園館との個体のやりとりをスムーズに行うことが可能となり、貴重な血統のニホンイヌワシの有精卵を譲り受け、当園飼育中のペアに抱卵、心化させることに成功した。（第2の1(1)再掲） また、オオサンショウウオの生息状況調査に職員を派遣し、技術の習得及び調査結果の還元を実施した。 オグロツルの人工繁殖に向け、採精手技習得のために頻回で採精試行した。また、埼玉県こども動物自然公園及び平川動物公園と人工授精を実施するための手順を含む覚書を締結し相手先のメスへ人工授精する手順を整えた。 <p>(2) 調査研究の推進と知見の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> 共同研究の推進や各班で1つ以上の研究テーマに取り組む等により、園内における研究体制の土台ができた。また、法人内で複数の研究を進めるだけでなく、成果がまとまったものについては研究会等で発表を行った。その成果の1つとして投稿論文（ふれあい施設の移転に伴う、動物福祉水準の維持・向上を徹底した方針への転換）が動物園水族館雑誌に掲載された。 また、令和6年度の全国動物園技術者研究会にて「チンパンジーの逸走事故と事後の対応について」というテーマで発表し、ベストプレゼン賞を受賞した。 今後、JAZA動物園水族館雑誌（査読付）に論文を投稿予定である。
		<p>法人の自己評価</p> <p style="text-align: right;">S</p> <ul style="list-style-type: none"> フラミンゴや、日本で2園目となる希少種ヨウスコウワニの繁殖、また、貴重な血統のニホンイヌワシの有精卵を譲り受け、実績のある当園のペアに託し、無事心化・育成に成功する等、多様な動物種で繁殖技術の向上を大いに図ることができた。 ニホンイシガメやオオサンショウウオなど外来種の生息域内調査に職員を派遣したことで得た人脈を活用し、外部有識者に園内で講演していただくことで、職員の知見を広げるだけでなく、来園者にも外来種の現状を知っていただくきっかけ作りに結びついた。 「認定希少種保全動植物園」に令和6年7月25日付で国内16園目（令和7年3月27日時点で24園）に認定されたことを生かし、絶滅危惧種であるニホンイヌワシの有精卵移動の手続きが簡略化され、スムーズに移動する事ができた。 令和5年度投稿した論文が『動物園水族館雑誌 第65巻第2号（2023年9月）』に掲載、令和6年の全国動物園技術者研究会発表でベストプレゼン賞を受賞、論文投稿が確約されるなど、当園の研究成果について広く知見の共有を図ることができた。 <p>以上のことから、特筆すべき進捗を図ることができた。</p>

大項目	第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項																																												
	1 自律的な組織経営																																												
中期目標	中期計画	実績・特に成果があった取組等・今後の取組																																											
<p>(1) 機動的な組織体制の構築 理事長のトップマネジメントのもと、国内外の動物園の状況や動物飼育に関する理解に基づき、天王寺動物園の実情に即した機動的な組織体制を構築し、業務を執行する。</p> <p>(2) 適材適所の柔軟な人事配置 個々の職員の能力や専門性に応じた適材適所の人員配置を行い、高度な専門性が求められる業務には、必要に応じて外部から専門人材の登用を行う。</p>	<p>法人として「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」という目指す姿を組織内外に周知徹底する。</p> <p>また、中期目標の実現に向けた、組織の役職や人員について、その効果を定期的に検証し、必要に応じて見直しを図るとともに、専門性の高い業務について必要に応じて外部からの専門人材の登用を行う。</p>	<p>(1) 機動的な組織体制の構築 ・業務実績評価・年報について毎年度法人内で検討を行い、ホームページで公表を行った。</p> <p>(2) 適材適所の柔軟な人事配置 ・組織体制は、職員数、指揮命令や役職について検証を行う仕組みを構築し毎年度の体制に反映した。 ・毎年、新規採用者研修・コンプライアンス研修・サービス研修などの職員研修を実施し、動物園職員としての目指す姿について周知徹底を行った。 ・ホスピタリティ・動物園学などの研修や施設管理業務等のプロポーザル審査を外部の専門の方に依頼し実施した。</p> <table border="1" data-bbox="913 459 1467 715"> <thead> <tr> <th>専門人材登用実績</th> <th colspan="5">(人)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研修・講演等</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>プロポーザル・アドバイザー契約関係</td> <td>-</td> <td>12</td> <td>12※1</td> <td>1</td> <td>1※2</td> </tr> <tr> <td>その他（ネーミングライツ等）</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>-</td> <td>13</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 R3から継続 ※2 R5から継続</p> <table border="1" data-bbox="884 750 2128 957"> <thead> <tr> <th>法人の自己評価</th> <th>B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> ・業務実績評価・年報等の定期的な公表・研修の実施を通じて法人の目指す姿を組織内外に周知徹底した。 ・組織体制について、毎年度検証を行い次年度体制に反映させることで、実情に即した組織体制の構築を図ることができた。 また、年度中途における職員の欠員対応を迅速に行い、滞りなく業務執行を行うことができた。 ・必要に応じて外部からの専門人材の登用を行った。 以上のことから、自律的な組織経営がおおむね目標どおり達成を図ることができた。 </td> </tr> </tbody> </table>				専門人材登用実績	(人)						R2	R3	R4	R5	R6	研修・講演等	-	1	3	3	7	プロポーザル・アドバイザー契約関係	-	12	12※1	1	1※2	その他（ネーミングライツ等）	-			1	1	合計	-	13	3	5	8	法人の自己評価	B	・業務実績評価・年報等の定期的な公表・研修の実施を通じて法人の目指す姿を組織内外に周知徹底した。 ・組織体制について、毎年度検証を行い次年度体制に反映させることで、実情に即した組織体制の構築を図ることができた。 また、年度中途における職員の欠員対応を迅速に行い、滞りなく業務執行を行うことができた。 ・必要に応じて外部からの専門人材の登用を行った。 以上のことから、自律的な組織経営がおおむね目標どおり達成を図ることができた。	
専門人材登用実績	(人)																																												
	R2	R3	R4	R5	R6																																								
研修・講演等	-	1	3	3	7																																								
プロポーザル・アドバイザー契約関係	-	12	12※1	1	1※2																																								
その他（ネーミングライツ等）	-			1	1																																								
合計	-	13	3	5	8																																								
法人の自己評価	B																																												
・業務実績評価・年報等の定期的な公表・研修の実施を通じて法人の目指す姿を組織内外に周知徹底した。 ・組織体制について、毎年度検証を行い次年度体制に反映させることで、実情に即した組織体制の構築を図ることができた。 また、年度中途における職員の欠員対応を迅速に行い、滞りなく業務執行を行うことができた。 ・必要に応じて外部からの専門人材の登用を行った。 以上のことから、自律的な組織経営がおおむね目標どおり達成を図ることができた。																																													

大項目	第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項																							
	2 人材の確保・育成と職員の能力向上・意欲喚起																							
中期目標	中期計画	実績・特に成果があった取組等・今後の取組																						
<p>(1) 人材の確保・育成 持続的かつ国際的にも通用する動物園経営のため、組織として蓄積した知識と技術を着実に継承するとともに、中長期的な視点から計画的な人材の確保・育成に努める。人材の確保・育成にあたっては、支援者（来園者、寄付者等を含む）、園内スタッフ等の関係者、設立団体である本市、日本動物園水族館協会及び世界動物園水族館協会等関連する多様なステークホルダーと法人との良好なコミュニケーションに寄与できる人材を基準又は目標とする。</p> <p>また、職員の能力向上に必要な技術を常に調査・把握のうえで、飼育管理をはじめとする天王寺動物園の機能向上に資する技術の習得機会（国内外の研究会における情報交換、ホスピタリティ向上やファンドレイジング（戦略的に外部資金を広く集めること。以下同じ。）に関する研修参加等）を積極的に設ける。</p> <p>(2) 職員の能力向上と意欲喚起 インセンティブが適正に働く人事評価制度を確立することにより、勤務意欲を高め、職員個人の能力及び組織力の向上を図る。</p>	<p>(1) 人材の確保・育成 人材の確保については、現在の職員の年齢構成・経験も考慮し、中期目標の達成に資する人材の確保に努める。</p> <p>また、人材の育成については、中期目標の達成に向け、求められる考え方、技術・能力をOJTや研修等で着実に習得させるとともに、数多く在籍するベテラン職員層のノウハウを標準化した各種マニュアル類で共有することにより園全体の能力を向上させる。</p> <p>(2) 職員の能力向上と意欲喚起 法人設立当初に策定した評価制度の定期的な効果検証を行い必要に応じて見直しながされる仕組みを構築する。</p>	<p>(1) 人材の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 採用方法について、毎年度見直しを行い、年齢構成・経験等踏まえて採用試験を実施し人材の確保に努めた。 令和6年度に提案型研修制度を構築し、職員自らが計画して国内外において研鑽に励むことができる機会を提供した。 <p>(2) 職員の能力向上と意欲喚起</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務遂行上有益となる資格取得・保持にかかる資格取得支援制度を構築し、必要に応じて対象資格を加えてきた。（「飼育技師（一般・上級）」、「学芸員」、「准認定ファンドレイザー」、「電気主任技術者」、「衛生管理者」の資格取得・保持を支援） <table border="1" data-bbox="913 472 1458 596"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th>(人)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資格取得支援実績</td> <td>-</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度、インセンティブ制度（業績結果活用型報酬制度・人事評価結果型報酬制度・提案型研修制度）を構築し、実施した。 <table border="1" data-bbox="887 692 2130 871"> <thead> <tr> <th>法人の自己評価</th> <th>B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> 急な欠員に対しても柔軟な採用を実施することで、法人が求める人材の確保を行った。 国際的先進事例を学ぶことが可能となる海外研修を制度化した。 計画的に研修を実施し、資格取得支援制度の運用を行った。 職員の人事評価制度を適切に運用し、インセンティブを反映できる制度を構築・実施した。 以上のことから、おおむね目標どおり達成できた。 </td> </tr> </tbody> </table>						(人)		R2	R3	R4	R5	R6	資格取得支援実績	-	4	8	7	2	法人の自己評価	B	<ul style="list-style-type: none"> 急な欠員に対しても柔軟な採用を実施することで、法人が求める人材の確保を行った。 国際的先進事例を学ぶことが可能となる海外研修を制度化した。 計画的に研修を実施し、資格取得支援制度の運用を行った。 職員の人事評価制度を適切に運用し、インセンティブを反映できる制度を構築・実施した。 以上のことから、おおむね目標どおり達成できた。	
					(人)																			
	R2	R3	R4	R5	R6																			
資格取得支援実績	-	4	8	7	2																			
法人の自己評価	B																							
<ul style="list-style-type: none"> 急な欠員に対しても柔軟な採用を実施することで、法人が求める人材の確保を行った。 国際的先進事例を学ぶことが可能となる海外研修を制度化した。 計画的に研修を実施し、資格取得支援制度の運用を行った。 職員の人事評価制度を適切に運用し、インセンティブを反映できる制度を構築・実施した。 以上のことから、おおむね目標どおり達成できた。																								

大項目	第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項					
中期目標	中期計画	実績・特に成果があった取組等・今後の取組				
<p>(1) PDCAサイクルの確立 評価委員会の見解に基づき本市が評価基準を作成し、その評価基準を動物園経営のPDCAサイクルに組み込み効果的・効率的な業務執行に努める。</p> <p>(2) ICTの導入及び活用 ICTを導入・活用することで、業務の標準化と事務処理の効率化を図る。</p>	<p>(1) PDCAサイクルの確立 法人設立初年度は、評価の対象となる年度計画の各項目毎に適切に進捗管理が実施できるような仕組みを構築し、日常業務の履行が評価基準の達成に自然と結びつくよう取り組みを行う。さらに、達成状況を踏まえ、日常業務や次年度計画に反映するとともに、必要に応じて中期計画の変更を行う。</p> <p>(2) ICTの導入及び活用 事務効率化の観点から人事財務部門へのICTの導入はもちろん、動物福祉向上の観点から飼育診療部門において、飼育、各種トレーニング、診療の履歴などの情報を一体的に管理できるよう、ICTの導入と日常的な活用に取り組む。</p>	<p>(1) PDCAサイクルの確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度計画の進捗管理状況について、四半期ごとに大阪市と確認を行い、達成状況を鑑み中期計画や年度計画の変更を行った。 <p>(2) ICTの導入及び活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務の標準化と事務処理の効率化を目的に、飼育日誌の電子化を図り、全ての飼育担当班において新たに作成したプラットフォームへ移行した。 勤怠システムについては新規採用者・管理監督者向け研修を年度当初に実施することで、日々の運用に支障のないようにした。また研修内容については全職員に周知を行った。 給与システム及び財務会計システムについては、細かな改善等のアップデートを業者と調整のうえ随時行うことで、円滑な運用に努めた。 <table border="1" data-bbox="887 544 2136 667"> <thead> <tr> <th data-bbox="887 544 1509 576">法人の自己評価</th> <th data-bbox="1509 544 2136 576">B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2" data-bbox="887 576 2136 667"> <ul style="list-style-type: none"> 年度計画進捗管理シートによる進捗状況の確認及び大阪市との共有を定期的に行うことで、円滑な運用ができた。 各システムについては、エラー発生なく安定的に運用できた。 <p>以上のことから、おおむね目標どおり達成できた。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	法人の自己評価	B	<ul style="list-style-type: none"> 年度計画進捗管理シートによる進捗状況の確認及び大阪市との共有を定期的に行うことで、円滑な運用ができた。 各システムについては、エラー発生なく安定的に運用できた。 <p>以上のことから、おおむね目標どおり達成できた。</p>	
法人の自己評価	B					
<ul style="list-style-type: none"> 年度計画進捗管理シートによる進捗状況の確認及び大阪市との共有を定期的に行うことで、円滑な運用ができた。 各システムについては、エラー発生なく安定的に運用できた。 <p>以上のことから、おおむね目標どおり達成できた。</p>						

大項目	第4 財務内容の改善に関する事項																																																																
	1 収入の確保																																																																
中期目標	中期計画	実績・特に成果があった取組等・今後の取組																																																															
<p>来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を向上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。</p>	<p>事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンドレイジングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。</p>	<p>(入園料収入)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 新型コロナウイルスの影響から脱却し入園者数は回復傾向となったが、来園者数は 170 万人前後で推移しており大幅な増加とはならなかった。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入園者数</td> <td>770,138</td> <td>839,003</td> <td>1,396,363</td> <td>1,714,317</td> <td>1,697,555</td> <td>(人)</td> </tr> <tr> <td>入園料収入</td> <td>221,968</td> <td>238,399</td> <td>400,998</td> <td>511,285</td> <td>528,658</td> <td>(千円)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(入園料外収入)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 新たなファンクラブ制度を立ち上げ、特典や会員限定イベントを充実させ、魅力あるものとしてきた。 • クラウドファンディングの実施、役員等による渉外営業、銀行との協定書締結、近隣企業でのチラシ配架・ブース設置等を行った他、新たに寄附付き・ガチャ付き入園券の販売にも取り組んだ結果、寄附金額は堅調に推移してきた。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>寄附金額</td> <td>17,347</td> <td>37,505</td> <td>21,691</td> <td>27,350</td> <td>27,882</td> <td></td> </tr> <tr> <td>クラウドファンディング</td> <td></td> <td></td> <td>18,206</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計額</td> <td>17,347</td> <td>37,505</td> <td>39,897</td> <td>27,350</td> <td>27,882</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> • 令和4年にグッズのオンラインショップを開設、令和6年から開園 110 周年記念オリジナルグッズの販売を開始するなどの販売促進の結果、増収となった。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>売店歩合収益額</td> <td>357</td> <td>3,322</td> <td>14,000</td> <td>19,830</td> <td>22,211</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		R2	R3	R4	R5	R6		入園者数	770,138	839,003	1,396,363	1,714,317	1,697,555	(人)	入園料収入	221,968	238,399	400,998	511,285	528,658	(千円)		R2	R3	R4	R5	R6	(千円)	寄附金額	17,347	37,505	21,691	27,350	27,882		クラウドファンディング			18,206				合計額	17,347	37,505	39,897	27,350	27,882			R2	R3	R4	R5	R6	(千円)	売店歩合収益額	357	3,322	14,000	19,830	22,211	
	R2	R3	R4	R5	R6																																																												
入園者数	770,138	839,003	1,396,363	1,714,317	1,697,555	(人)																																																											
入園料収入	221,968	238,399	400,998	511,285	528,658	(千円)																																																											
	R2	R3	R4	R5	R6	(千円)																																																											
寄附金額	17,347	37,505	21,691	27,350	27,882																																																												
クラウドファンディング			18,206																																																														
合計額	17,347	37,505	39,897	27,350	27,882																																																												
	R2	R3	R4	R5	R6	(千円)																																																											
売店歩合収益額	357	3,322	14,000	19,830	22,211																																																												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">法人の自己評価</th> <th>B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> • 入園料収入は大幅な増加とならなかったものの、入園料外収入は市直営時代と比べ大きく増加したため、おおむね目標どおり達成できている。 </td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	法人の自己評価		B	<ul style="list-style-type: none"> • 入園料収入は大幅な増加とならなかったものの、入園料外収入は市直営時代と比べ大きく増加したため、おおむね目標どおり達成できている。 																																																											
法人の自己評価		B																																																															
<ul style="list-style-type: none"> • 入園料収入は大幅な増加とならなかったものの、入園料外収入は市直営時代と比べ大きく増加したため、おおむね目標どおり達成できている。 																																																																	

大項目	第4 財務内容の改善に関する事項													
中期目標	2 経費の節減	実績・特に成果があった取組等・今後の取組												
<p>常に高いコスト意識を持って動物園経営を行い、日々の業務内容等の点検・精査により、経費を節減することはもちろんのこと、猯舎整備等の投資についても地方独立行政法人における制度上の優位性を最大限に活かし、発注方法等の工夫で、経費の抑制に努める。</p>	<p>日々の業務内容等の点検・精査や管理業務における外部委託内容の精査、猯舎整備における発注方法の工夫及び固定経費のさらなる節減等により運営経費の抑制に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 水道使用量の把握を目的とし、猯舎毎に子メーターを順次設置のうえ漏水有無を確認し、必要な箇所は速やかに補修した。 独法化により新たな発注形式（設計施工一括発注、建築・設備一元化）を採用し、大阪市発注より約1割のコスト縮減（試算）を図ることができた。 <table border="1" data-bbox="913 341 1370 469"> <thead> <tr> <th></th> <th>合計（税込み）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>法人（一括契）</td> <td>4,370,300,000</td> </tr> <tr> <td>大阪市（分割契約）</td> <td>4,782,800,000</td> </tr> <tr> <td>削減率</td> <td>91.4%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 関西電力からの節電要請時に朝礼で協力を呼びかけたり、節電ポスターを掲示したりするなど、電気使用量の抑制の必要性を周知し節電に努めた。 定例会議（理事会・実務者会議等）において、紙資料を用いず PC 利用とし、研修等の内部資料については両面印刷・2in1 での印刷に努めることで紙の使用量の削減に努めた。 猯舎整備に際して大幅な事業費増が生じたため、一部整備内容を見直し（既存猯舎の活用、第2期以降への工期変更）したが、結果的に総事業費予定額を超過した。 <table border="1" data-bbox="887 692 2130 842"> <thead> <tr> <th>法人の自己評価</th> <th>B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> 動物園という業務特性上、光熱水費の削減には一定限界があるものの、それ以外の部分も含めこまめな節約を呼びかけた。 猯舎整備の事業費増は、物価上昇や地中障害物対策等の予期せぬ外部影響によるものであった。 <p>以上のことから、おおむね目標どおり達成できた。</p> </td> </tr> </tbody> </table>		合計（税込み）	法人（一括契）	4,370,300,000	大阪市（分割契約）	4,782,800,000	削減率	91.4%	法人の自己評価	B	<ul style="list-style-type: none"> 動物園という業務特性上、光熱水費の削減には一定限界があるものの、それ以外の部分も含めこまめな節約を呼びかけた。 猯舎整備の事業費増は、物価上昇や地中障害物対策等の予期せぬ外部影響によるものであった。 <p>以上のことから、おおむね目標どおり達成できた。</p>	
	合計（税込み）													
法人（一括契）	4,370,300,000													
大阪市（分割契約）	4,782,800,000													
削減率	91.4%													
法人の自己評価	B													
<ul style="list-style-type: none"> 動物園という業務特性上、光熱水費の削減には一定限界があるものの、それ以外の部分も含めこまめな節約を呼びかけた。 猯舎整備の事業費増は、物価上昇や地中障害物対策等の予期せぬ外部影響によるものであった。 <p>以上のことから、おおむね目標どおり達成できた。</p>														

大項目	第5 その他業務運営に関する重要事項					
	1 内部統制の強化					
中期目標	中期計画	実績・特に成果があった取組等・今後の取組				
<p>法人が適切に業務を運営していくため、内部統制の確立・強化に必要な環境を整備する。</p> <p>(1) 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築</p> <p>(2) 法人運営に必要な諸規程の整備、周知徹底及び適切な運用</p> <p>(3) コンプライアンスの周知徹底</p> <p>(4) 個人情報等の保護</p> <p>(5) 内部監査及び監事による監査の適切な実施</p> <p>(6) ネットワークセキュリティの強化</p>	<p>① 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築 集客施設運営上の特性及び地方独立行政法人法上求められる内部統制の考え方を踏まえ、重要なリスクを回避する体制が機能するとともに、必要に応じて見直し可能な仕組みを構築する。</p> <p>② 法人運営に必要な諸規程の整備と周知徹底、適切な運用 法人運営にあたって整備した諸規定を関係職員が十分に理解したうえで、円滑に運用できるよう取り組むとともに必要に応じて見直しを行う。</p> <p>③ コンプライアンスの周知徹底 法令順守に加えて、独立行政法人の職員として社会（来園者）の要請に応える行動は何かを理解する。</p> <p>④ 個人情報等の保護 個人情報等の保護に関する法律に基づいて整備した法人の個人情報保護規定を職員全員が十分に理解・運用できている状態とする。</p> <p>⑤ 内部監査及び監事監査の適切な実施 内部監査により定期的に内部統制環境の有効性をモニタリングするとともに、監事による監査を通じて、内部統制に関する必要な見直しを行う。</p> <p>⑥ ネットワークセキュリティの強化 個人情報等の機密情報の漏えい</p>	<p>(1) 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築 ・不適切事案が発生した場合には迅速に内部統制委員会を開催し、再発防止に向けた対策を検討・実施するとともに、理事会で報告を行った。 ・毎年度リスク管理委員会を開催し、リスクの洗い出し・見直しを行い、リスク管理を行った。また、リスク管理計画を基に施設の点検・補修等を行った。</p> <p>(2) 法人運営に必要な諸規程の整備、周知徹底及び適切な運用 ・毎年度、法人規程・サービスにかかる研修を実施した。</p> <p>(3) コンプライアンスの周知徹底 ・毎年度コンプライアンス研修において実際に起こった事案の検証・気を付けるべき点の確認を行うとともに、コンプライアンス月間において啓発ポスターの掲示・セルフチェックを実施し、意識の啓発に努めた。 ・不適切事案が発生した場合は、速やかに全職員に通知し、注意喚起を行った。</p> <p>(4) 個人情報等の保護 ・年度当初、個人情報取扱事務にかかる重要管理ポイントについて周知を行うとともに、情報セキュリティ研修を実施した。</p> <p>(5) 内部監査及び監事による監査の適切な実施 ・監査を効果的なものとするため、その時々状況を踏まえ十分議論（監事の指摘含む）のうえテーマ決定して実施した。また監査結果によってはリスク管理委員会議題とした。 ・令和6年度に大阪市の監査委員監査を受け、監査結果を理事会で速やかに報告のうえ、指摘事項の改善に着手した。</p> <p>(6) ネットワークセキュリティの強化 ・年度当初、個人情報取扱事務にかかる重要管理ポイントについて周知を行うとともに、情報セキュリティ研修を実施した。</p> <table border="1" data-bbox="887 986 2121 1166"> <thead> <tr> <th data-bbox="887 986 1509 1018">法人の自己評価</th> <th data-bbox="1509 986 2121 1018">B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2" data-bbox="887 1018 2121 1166"> <ul style="list-style-type: none"> 定期的な研修であっても状況に応じて随時内容等を更新し、不適切事案等の突発的なものには速やかに対応した。 令和6年10月の職員による窃盗行為は、法人の信用失墜に直結するのみならず、再発防止対策の徹底が急務の重大事案であるとの認識の下、法人規程に基づき厳正に対処するとともに、速やかに対策を講じた。 監事とは日常的に情報共有しており、適宜アドバイスを受けた。 <p>以上のことから、おおむね目標どおり達成できた。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	法人の自己評価	B	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な研修であっても状況に応じて随時内容等を更新し、不適切事案等の突発的なものには速やかに対応した。 令和6年10月の職員による窃盗行為は、法人の信用失墜に直結するのみならず、再発防止対策の徹底が急務の重大事案であるとの認識の下、法人規程に基づき厳正に対処するとともに、速やかに対策を講じた。 監事とは日常的に情報共有しており、適宜アドバイスを受けた。 <p>以上のことから、おおむね目標どおり達成できた。</p>	
法人の自己評価	B					
<ul style="list-style-type: none"> 定期的な研修であっても状況に応じて随時内容等を更新し、不適切事案等の突発的なものには速やかに対応した。 令和6年10月の職員による窃盗行為は、法人の信用失墜に直結するのみならず、再発防止対策の徹底が急務の重大事案であるとの認識の下、法人規程に基づき厳正に対処するとともに、速やかに対策を講じた。 監事とは日常的に情報共有しており、適宜アドバイスを受けた。 <p>以上のことから、おおむね目標どおり達成できた。</p>						

	を未然に防ぐため、情報セキュリティ対策を徹底する。	
--	---------------------------	--

大項目	第5 その他業務運営に関する重要事項		
	2 来園者の安全確保		
中期目標	中期計画	実績・特に成果があった取組等・今後の取組	
来園者が安全かつ快適に施設を利用できるよう、施設を適正に維持管理するとともに、計画的に施設の整備を推進する。	園内施設の安全確保や来園者の安全確保に必要な体制の整備 及び園内で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度のチンパンジー逸走事故により、来園者の安全確保を脅かす事態を招いた。 動物逸走の際に課題となった大阪市をはじめ関係各所への迅速な連絡体制を強化すべく、令和5年度より訓練を実施している。また、令和5年度はJAZA 安全対策委員長（前京都市動物園園長）に依頼し逸走事故の振り返りも踏まえ、他園館の対策事例について研修を実施した。 令和6年度の防災研修において、全職員を対象に猛獣脱出時の体制の確認と必要機材の保管場所や段取りについて学ぶとともに、捕獲用具の使い方についても周知した。また、他園のトラによる職員死亡事例を経験していた講師による座学を全職員対象に実施のうえ、猛獣脱出対応訓練を行うことで来園者の安全確保が徹底できるようにした。 園内施設について、年2回の定期点検を実施し、故障等は適切に修繕・改善等を行った。 施設整備事業において、施工業者への確認・指示等を適宜行うなど安全対策を徹底することにより来園者の安全確保に影響するような事故はなかった。 	
		法人の自己評価	C
		<ul style="list-style-type: none"> チンパンジー逸走事故については、素早く来園者を避難誘導のうえ臨時休園とし、数時間後に園内にて無事捕獲することができたが、その際職員1名が負傷した。 園内全施設の安全点検を速やかに実施、当該施設の改修をはじめ、職員・園関係者の安全意識の向上等を実施した結果、その後同様の事故は発生していないが、特定動物（※）であるチンパンジー逸走を招いた事実から、目標を十分には達成できていない。 <p>※動物の愛護及び管理に関する法律に規定の、人の生命・身体等に危害を加える恐れがある動物。</p>	

大項目	第5 その他業務運営に関する重要事項					
	3 職員の安全衛生管理					
中期目標	中期計画	実績・特に成果があった取組等・今後の取組				
<p>職員が安全かつ快適な労働環境で業務に従事できるよう、安全対策の徹底と事故防止に努める。</p> <p>また、職員が心身ともに健康を保持し、その能力を十分発揮できる職場環境づくりに努める。</p>	<p>労働安全衛生法等に基づいた安全衛生管理体制に加え、職員の健康保持促進のための取組みを進めるとともに、職員へ周知徹底する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 法令で定められている健康診断、業務に必要な予防接種、安全衛生委員会を実施し、委員会議事や職場巡視結果（委員後に産業医とともに実施）は速やかに全職員に周知を行った。 • 毎年一回共済組合主催の健康講座を実施した。（メンタルヘルス・疲労回復等） • 健康診断の事後措置として、受診勧奨・受診結果確認を行うとともに、産業医からの健康にかかる助言内容を職員に伝え、健康保持促進の取組みを進めた。 • 令和6年度から、重大事故への発展防止のため、職員の自己申告によるヒヤリハット事例の全職員共有を開始し、更なる安全意識の向上に努めた。 <table border="1" data-bbox="887 427 2134 518" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 50%;">法人の自己評価</td> <td style="text-align: center; width: 50%;">B</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> • 法令に定められている取組を着実に実施するだけでなく、新たにヒヤリハット事例の共有を開始するなど、おおむね目標どおり達成できた。 </td> </tr> </table>	法人の自己評価	B	<ul style="list-style-type: none"> • 法令に定められている取組を着実に実施するだけでなく、新たにヒヤリハット事例の共有を開始するなど、おおむね目標どおり達成できた。 	
法人の自己評価	B					
<ul style="list-style-type: none"> • 法令に定められている取組を着実に実施するだけでなく、新たにヒヤリハット事例の共有を開始するなど、おおむね目標どおり達成できた。 						

大項目	第5 その他業務運営に関する重要事項					
	4 環境に配慮した取組の推進					
中期目標	中期計画	実績・特に成果があった取組等・今後の取組				
環境への負荷を低減するため、天王寺動物園内及び事務所内において環境に配慮した取組を推進する。	WAZA（世界動物園水族館協会）の持続可能戦略で示されたSDGsへの貢献に向け、環境に配慮した取組を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育日誌の電子化や課内ミーティングのペーパーレス化に取り組んだ。 ・Team Expo 共創チャレンジで、園内で作成した堆肥を園内だけでなく園外での協働事業にも活用した。またその取組内容についても積極的に発信した。 ・ペットボトルキャップの回収、古くなったユニフォームのアップサイクル、食品ロス削減目的での飼料の受入れを行った。 ・令和5年度に大阪市から譲渡を受けたシラカシ等の樹木（※）については、園路の植栽及び飼育動物の環境エンリッチメントに活用した。 ※歩道に違法に放置されていた植木鉢 103 個を大阪市が撤去したもの 				
		<table border="1"> <tr> <td>法人の自己評価</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・限りある資源の再利用や食品ロスの削減等に継続的に取り組んでおり、おおむね目標どおり達成できた。</td> </tr> </table>	法人の自己評価	B	・限りある資源の再利用や食品ロスの削減等に継続的に取り組んでおり、おおむね目標どおり達成できた。	
法人の自己評価	B					
・限りある資源の再利用や食品ロスの削減等に継続的に取り組んでおり、おおむね目標どおり達成できた。						

大項目	第5 その他業務運営に関する重要事項					
	5 情報公開の推進					
中期目標	中期計画	実績・特に成果があった取組等・今後の取組				
<p>法人の運営状況について透明性を確保するため、毎年の業務実績報告書等により情報公開を推進する。</p>	<p>情報公開を推進し、運営状況の透明性を高めることで、法人の活動への理解及び信頼を得る。 また、法令に定める情報のみならず業務内容の理解に資する情報も、積極的に公表する。</p>	<p>• 法人基本情報として、各種計画・規程、財務諸表、理事会議事要旨等を公表するとともに、年報は製本化のうえ協賛企業等に配付することでPRにも努めた。 • 情報内容に変更があった場合も速やかに公表するよう努めた。</p> <table border="1" data-bbox="887 308 2119 371"> <tr> <td data-bbox="887 308 1509 339">法人の自己評価</td> <td data-bbox="1509 308 2119 339">B</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="887 339 2119 371">• 法人基本情報は原則公開の方針の下、公表しており、おおむね目標どおり達成できた。</td> </tr> </table>	法人の自己評価	B	• 法人基本情報は原則公開の方針の下、公表しており、おおむね目標どおり達成できた。	
法人の自己評価	B					
• 法人基本情報は原則公開の方針の下、公表しており、おおむね目標どおり達成できた。						

大項目	第5 その他業務運営に関する重要事項			
	6 BCPの策定			
中期目標	中期計画	実績・特に成果があった取組等・今後の取組		
地震や台風等大規模な自然災害の発生や新興感染症の流行等によるリスクを最小限とするため、BCP（事業継続計画）を策定し、重大事故等の危機事象が発生した際の体制を構築する。	地震、台風など自然災害及び新型コロナウイルス感染症、鳥インフルエンザなどの新興感染時による対応をあらかじめ定めることで来園者・職員の安全を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> 地震・台風等の自然災害の想定や、動物逸走・停電事案等を踏まえた検証を都度行い、必要に応じてBCPの改定を行った。 鳥インフルエンザについては、環境省による発生情報の対応レベルに応じて、鳥類展示の中止やバックヤードへの退避等の対応を行った。 		
		<table border="1"> <tr> <td>法人の自己評価</td> <td>B</td> </tr> </table>	法人の自己評価	B
		法人の自己評価	B	
<ul style="list-style-type: none"> BCP 検討会議（全課参加）を定例的に開催することで、認識共有や意識醸成にも努めている。 鳥インフルエンザは毎年発生しているが、各種対応により鳥類の死亡事例や人への感染事例は無い。 <p>以上のことからおおむね目標どおり達成できた。</p>				